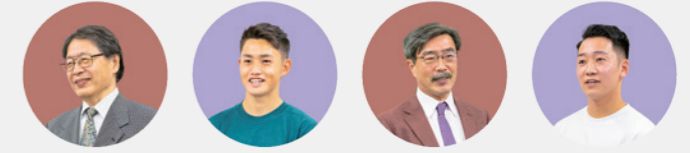


# [国際経済学科]のゼミナール

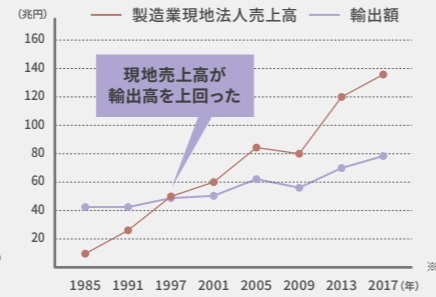


## Department of International Economics SEMINAR

※1: 出典 / 財務省「貿易統計」、経済産業省「海外事業活動基本調査」 ※2: 出典 / Maddison, A. (2001), The World Economy: A Millennial Perspective, OECD, IMF, International Financial Statistics ※3: 出典 / ミラノヴィッチ(2017)『大不平等』

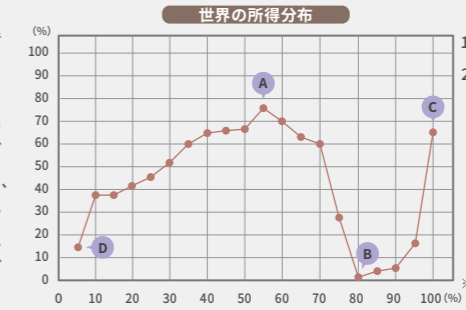
### 01 日本と海外日系企業(製造業)の現地売上高の推移

右のグラフは日本の輸出額と、海外にある日系企業(製造業)の現地での売上高を表したグラフです。1997年頃を境に、製造業現地法人売上高が輸出高を上回るようになりました。かつて資源を輸入し国内で加工、それを輸出して国民経済の発展を振興する「輸出国」であった日本経済のあり方が変化していることが分かります。



### グローバルな所得水準で見た一人当たりの実質所得 エレファントカーブについて

世界の所得階層の分布を示す右のグラフは、象が鼻を持ち上げる姿に似ていることから「エレファントカーブ」と呼ばれています。横軸に世界の富裕層から貧困層までを並べ、縦軸で一定期間に各階層がどれだけ所得を伸ばしたのかを表しています。このグラフからも分かるように、どの国に住んでいるかで所得に大きな差が生まれてしまうことはグローバルな不平等だと言われています。



世界の所得分布 (1998年～2008年)

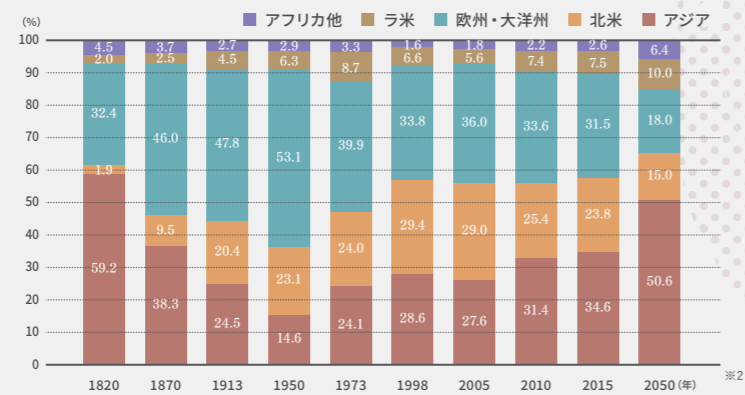
実質所得の階層別

- [勝ち組] A / 新興グローバル中間層
- [負け組] B / 豊かな世界の低下中下層
- [恩恵が及ばない約4億人] C / グローバルな超富裕層
- D / グローバル最貧層

### 02 世界経済における重心の推移

#### 世界経済における 重心の推移

経済のあり方が変化しているのは日本だけではなく、今世界経済の重心が再びアジアに戻りつつあり、欧米諸国中心の世界観は修正が必要となっています。下の棒グラフは世界経済のGDP構成を年代別に表したものです。1870年から欧米諸国が半分以上を占めていましたが、2000年代からアジアが徐々に増加、2050年にはアジアと欧米諸国が逆転し、アジアが5割を占めると予想されています。アジアの中でも特に中国とインドの経済に勢いがあります。世界経済の重心が変化することに伴って、欧米諸国の価値観とアジア諸国の多様な価値観をうまく集約できるかが、今後の大きな鍵となっていきます。



#### 相対的格差の縮小と絶対的格差の拡大

グローバルな不平等は近年下降傾向ではありますが、国内の不平等は悪化しています。例えば所得が10万円と100万円の国民の場合、相対的には10倍、単純な差は90万円です。国民全体の所得が増加、2人の国民の所得が20万円と160万円になったとき、相対的には8倍ですが差は140万円に広がってしまいました。どちらの世界に住みたいか、是非考えてみてください。

どちらの世界に住みたい?

10万円 対 100万円  
相対10倍 絶対90万円

20万円 対 160万円  
相対8倍 絶対140万円



- 1 貿易コストの低下 (1820年～)  
蒸気革命、コンテナの発明、自由貿易体制、都市化 (生産と消費の世界的分層)
- 2 通信コストの低下 (ICT革命、1980年代後半～)  
知識と技術の国際的分散
- 3 対面コストの低下 (AI革命)  
複雑な知識とノウハウのネットワークの蓄積と移転  
またはグローバル化への反動  
難民・移民問題

#### モノ、知識・技術・情報、ヒトの移動 3段階のグローバル化

狐崎ゼミでは国際的な格差問題以外にも、国際化がもたらしたグローバル化についても分析しています。国際化が進むことは国同士の格差の是正につながりますが、問題点も多々あります。このようなデータを用いてディスカッションを深めることがゼミの醍醐味の1つです。

### 狐崎 知己ゼミナール

Tomomi Kozaki SEMINAR



### 大橋 英夫ゼミナール

Hideo Ohashi SEMINAR

#### 大橋 英夫 教授

#### ディスカッションとプレゼンテーションを重視する

ディスカッションとプレゼンテーションを重視しています。身近な社会問題から国際問題まで、ひとつの議題に対してゼミ生が異なる立場からディスカッションに参加し、議題に対する理解を深めていくスタイルをとっています。議題の背景・ポイントを共有できるように、また異なる見方を整理するために、プレゼンテーションの機会を設けています。さらに各学生の関心領域に基づき、進級・卒業論文の作成を進めています。理解力と同時に発信力にこだわるゼミです。

#### 教授の視点

#### 学生の視点

#### 社会問題と経済学の実態をひも解いていく

大橋ゼミでは時事問題を中心に、現代の社会問題について研究しています。授業ごとにゼミ生自身で議題を決め、ディベートを行うことで問題を発見する能力や伝達力を身につけてきました。時事問題を取り上げることで、日常生活の中で疑問に思っていることや解決したい事情も仲間と共に議論できるため、生活上で大きく役立っています。また、学生主体で授業を展開していることもあり、ゼミ生の仲がとても良く、活気あふれる雰囲気であることもこのゼミの魅力です。

#### 4年 佐々木 風舟 さん

#### 4年 増野 央可 さん

#### 途上国の貧困と開発をテーマに理論と政策を研究

開発経済学をベースに途上国における貧困問題を学んでいます。理論書や事例研究をもとに議論をし、問題分析や政策提言能力を磨いています。またゲスト講師を招いてインターゼミを春と秋に行い、3大学の学生達がプレゼンテーション能力を競い合います。知識だけでなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身につきます。さらに留学経験のある卒業生との交流が頻繁に行われ、学生目線で親身に相談に乗ってくださることもこのゼミの魅力です。

#### 学生の視点

#### 教授の視点

#### 国際問題を自分達の目線でディスカッション

国際的な格差、途上国の栄養や保健、教育、移民、汚職などの問題を開発経済学の最新の手法とデータ分析を用いてディスカッションします。ノーベル経済学賞を受賞したバナジー&デュフロ夫妻の『貧乏人の経済学』と『絶望を希望に変える経済学』を、ベースとなっている理論を含めて丁寧に読み込み、少人数のグループで解決案を競い合います。メキシコや東チモール、インド、フィリピン、タンザニアなどのスタディツアーに参加する学生も多く、熱い議論が続きます。

#### 狐崎 知己 教授